



特集

人口減少下における 持続可能な行政サービスに向けて

やまなし

自治の風

Yamanashi JICHI no KAZE
Vol.58 September.2025

contents

- 市町村長リレー
- 苦言提言
- 地域シンクタンク
- 市町村の元気印
- 地域おこし協力隊の活動



machijim **an**

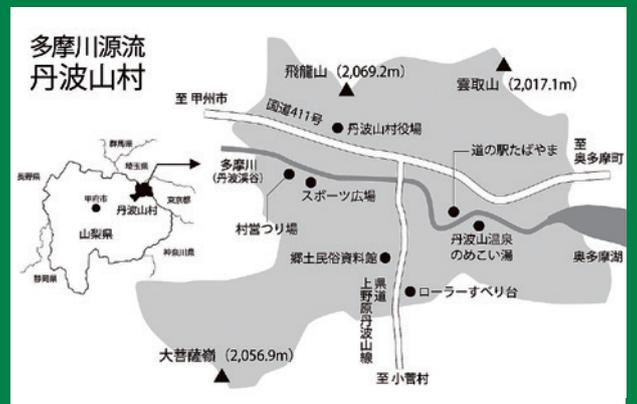
お問い合わせ先

丹波山村地域創造課

住所 山梨県北都留郡丹波山村2450番地

電話 0428-88-0211

HPアドレス <https://www.vill.tabayama.yamanashi.jp>



シリーズ ま・ち・自・慢 Tabayama-Village 丹波山村

祝・35周年!“日本一”のローラーすべり台

VOL.58 September, 2025 machijiman

さかのぼること40年近く前、竹下登政権下で、全国の自治体に一律で一億円が配られた「ふるさと創生事業」。この事業で丹波山村は、全長247mのローラーすべり台を建設しました。丹波溪谷を望む出発地点の小峰山の頂に建てた「冒険丹波山城」には、金のしゃちほこが飾られ、開業目前の新聞には「日本一の滑り台完成」の見出しが。

しかし、当時同じようにすべり台を建設した自治体はほかにもあり、ほどなく最長記録は塗り替えられたため、「三日天下」と言われることも。それでも1990年の開業から今日まで営業を続け、多くの方に愛され続けている丹波山村のローラーすべり台は、今年7月で35周年を迎えました。

高低差42mのコースは、急カーブやトンネルもありスリル満点。安全のため受付でマットと軍手を貸し出しています。料金は一日中何度すべっても400円(中学生以下200円)で、一日の最高記録は60回(当時小学2年生)。最近では、このすべり台を目当てにインバウンドのお客様もいらっしやいます。みなさんも、童心に返ってひとすべり、いかがですか？

やまなし

自治の風

Yamanashi JICHI no KAZE
Vol.58 September.2025

Contents

Yamanashi JICHI no KAZE Vol.58 September.2025

- まち自慢 丹波山村
- 02 市町村長リレー 甲州市
忍野村
- 06 苦言提言 あらためて「人」について
国土交通省総合政策局総務課長 奥原 崇
- 07 特集「人口減少下における持続可能な行政サービスに向けて」
- 08 特集1 人口減少下における持続可能な行政サービスに向けた取組
- 12 特集2 山梨県職員の人材確保に関する取り組み
- 14 特集3 人口減少下における自治体DX【生成AIの活用で未来を切り拓く】
- 16 特集4 人口減少下における共通課題に対する広域的な連携について
- 18 地域シンクタンク
- 20 市町村の元気印
- 22 地域おこし協力隊の活動
- 24 講演録
- 31 自治 Q & A
- 34 やまなしソーシャルイノベーションセンターについて
- 36 がんばっていま～す。
- 38 はつらつ!!市町村職員
- 40 市町村振興協会たより
時の人
編集後記



■表紙写真
「常永ゆめ広場」の紅葉

秋晴れの空に紅葉が映える「常永ゆめ広場」で撮影された1枚です。広々とした芝生広場をはじめ、遊具やウォーキングコース、多目的トイレも整備されており、幅広い世代が安心して利用できる憩いの場となっています。駐車場は広く、大型バスの駐車も可能です。（撮影11月）

【昭和町提供】



甲州市
Mayors of municipalities relay

市町村長リレー

未来へつなぐ、実りのまち甲州市

鈴木 幹夫 甲州市長

甲州市について

甲州市は、甲府盆地東部に位置する自然豊かなまちです。北東側には、秩父多摩甲斐国立公園を代表する山の一つで、日本百名山にも選ばれている大菩薩嶺をはじめ、秩父山系の山並みが連なっています。

こうした盆地特有の気候と扇状地の地形を活かし、果樹栽培を中心とした農業が盛んに行われています。令和4年には、峡東3市（山梨市、笛吹市、甲州市）の果樹農業が、国際連合食糧農業機関（FAO）により「峡東地域の扇状地に適応した果樹農業システム」として世界農業遺産に認定され、その価値が国際的にも高く評価されました。また、本市には40以上のワイナリーが点在しており、これは国内の市町村でトップクラスを誇ります。交通アクセスにも恵まれ、都心から約90分でアクセス可能な立地

は、観光や移住定住においても大きな魅力となっています。

さらに、市内には武田信玄公の菩提寺である恵林寺をはじめ、武田勝頼公の菩提寺・景德院や、武田家ゆかりの武具や文物を今に伝える栖雲寺など、武田家に縁の深い文化財が点在しています。山梨県内にある5件の国宝のうち3件（大善寺本堂、絹本著色達磨図、小桜韋威鎧・大袖付）が本市に所在しており、歴史文化の拠点としても重要な位置を占めています。



国宝 大善寺本堂



国宝 絹本著色達磨図 (向嶽寺)



国宝 小桜韋威鎧 兜、大袖付 (菅田天神社)



鈴木 幹夫 (甲州市長)

PROFILE 昭和26年10月16日生まれ(73歳)
昭和46年 3月 県立農業大学校卒業
平成17年 8月～山梨県議会議員
(平成28年9月～平成29年6月 第124代議長)
令和 2年 2月～甲州市長就任(現在2期目)

農業と観光の融合による地域活性化

本市の基幹産業は果樹農業であり、特にブドウ、モモ、スモモ、サクランボといった果樹の栽培は、全国でも屈指の規模と品質を誇ります。気候や地形を最大限に活用し、質の高い果物を生産することに加え、観光農園やワイナリー見学、収穫体験など、観光との融合を図った取り組みも積極的に進めています。

特に勝沼地域では、ワイン醸造を中心とした6次産業化やワインツーリズムの推進により、農業と観光が融合した地域づくりを市として主体的に進めており、地域ブランドの向上や新たな交流人口の創出につながっています。新規就農者の育成にも力を注いでおり、地域おこし協力隊「アグリトレーニー」制度を活用した果樹栽培の実地研修や耕作放棄地の再生支援などを通じて、新たな担い手の確保を図っています。

観光資源の活用と交流人口の拡大

観光振興の分野では、市のシンボルである市営「勝沼ぶどうの丘」が今年開業50

周年を迎えました。これを記念し、年間を通じて様々なイベントを行っています。さらには今年度は、観光施設や神社仏閣等の市内主要15カ所を巡るデジタル技術を活用したスタンプリー



勝沼のぶどう畑

など新しい観光施策を展開します。そして、令和10年春には勝沼町菱山地区に世界的ホテルブランド「マリオット・インターナショナルブランド」のホテルが開業予定です。甲府盆地に広がるぶどう畑が織りなす美しい景色とワイン文化が融合した、国内外からの観光客を魅了する滞在型観光の拠点となることを期待しています。

次世代を育む教育と子育て支援

教育や子育て環境についても充実を図っています。市内全小中学校でのGIGAスクール構想の推進により、すべての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びを実現するため、令和2年度に県内ではいち早く、児童生徒一人ひとりにタブレット端末を配備し、ICTを活用した学びを展開しています。令和5、6、7年度には、リーディングDXスクール推進事業に採択され、さらに今年度は、塩山南小学校と塩山中学校が生成AIパイロット校の指定を受けており、先端技術を取り入れた新たな教育モデルの構築にも取り組んでいます。

また、子どもたちが健やかに育ち、保護

者が安心して子育てできる環境づくりを将来にわたって推進していく中で、市独自で0〜2歳児の保育料無償化を実施しています。これにより、園児の年齢、兄弟数、保護者の所得にかかわらず、保育施設に在園するすべての園児の保育料が無償となりました。さらに、子育て世帯の経済的負担を軽減するため、小中学校の給食費も無償化しています。こうした取り組みは、単なる経済的支援にとどまらず、子どもを産み育てやすい社会の実現に向けた重要な一歩です。

地域資源を活かした体験型まちづくり

市民参加型の地域活性化事業として、「いきいき甲州プロジェクト・ヴェスタ甲州」にも注力しています。これは、本市のまちづくりの将来像である「豊かな自然・歴史と文化に彩られた果樹園交流のまち」を実現するため、地域資源を活用し、人が集い「食べる・喜ぶ・泊まる・参加する・体験する・感動する」ための場と機会を提供し、地域活性化を図ることを目的としています。

具体的な取り組みの一つである「稲作体験事業」は今年で3年目を迎え、塩山福生里地区の田んぼを活用して今年度は15組の親子が田植えを体験しました。子どもたちが土に触れながら苗を植えることで、食の大切さや農



塩山桃源郷

業の魅力を学ぶ貴重な機会となっております。こうした体験は、世代を超えた地域のつながりを育むとともに、未来を担う子どもたちの心に地域の誇りを育てています。

暮らしを支える移住定住支援

移住定住施策にも注力しています。都心から90分という交通アクセスを活かし、空き家情報バンク制度やお試し住宅などの制度を充実させ、移住希望者が本市で新たな生活を始められるよう、きめ細かなサポートを行っています。さらに、関係人口の拡大を図るため、リモートワークや二拠点居住などの多様なライフスタイルを支える取り組みを進め、都市部との交流を深めます。

結びに

市制施行20周年はまちづくりの総仕上げの年であるとともに、新たなスタートラインでもあります。平成17年11月に塩山市・勝沼町・大和村が合併して誕生した本市は、地域の一体感の醸成や行政の連携体制づくりなど多くの課題を乗り越え、市民の皆さまの協力のもと、それぞれの地域の特色や資源を活かしたまちづくりを進めてまいりました。20年の歩みは、果樹、歴史・文化、観光、教育、福祉など多様な分野で連携と工夫を重ねた、次の世代へ引き継ぐべきかけがえのない財産です。

今後はこの節目を新たな原点とし、持続可能で活力ある地域社会の構築に向けて、地域と行政が一体となって歩んでいくことが求められています。これからも市民の皆さまとともに、「誇りを持てる甲州市」の実現に向けて力強く歩んでまいります。



市町村長リレー

忍野村
Mayors of municipalities relay

全ての村民が住んで良かった

住み続けたいまちづくりを目指して

村制150周年を節目として

大森彦一 忍野村長

我が忍野村は明治8年2月15日、忍草村と内野村が合併し、本年度誕生から150年の意義深い節目を迎えております。

忍草村と内野村が合併した当時は、およそ1,332人が暮らす村でしたが、現在は人口9,700人を超える迄になり、人口の増加は緩やかになっているものの、地域活性化の指標の一つであります直近の合計特殊出生率は1.91と、山梨県内では最高位に位置しております。

振り返りますと、これまで幾多の困難や試練がありました。その度に互いに力を合わせ、支え合い、未来に向けて前進しようとする村民の強い絆により、自然豊かで活力ある忍野村を育んでまいりました。

滞在型観光を目指し

平成25年にユネスコの世界文化遺産に富士山と、その構成資産である忍野八海が登録されて以来、富士山の伏流水が湧き出る



忍野八海鏡池からの富士山

美しい水源の里と、富士山の雄大な姿が多くの人々を魅了し、国内外から多くの人々が訪れるようになり観光地として発展してきました。

現在、観光で本村を訪れる方の滞在が短時間での立ち寄りに留まっており、地域経済への貢献度が少なく限定的になっているため、この地域の立地を生かし、滞在型観光地を目指す取り組みが求められています。

産業振興

昭和59年から本村に本社を構えるファナック(株)を始めとする各企業の皆様方のご尽力により雇用が創出され、経済基盤が強化され、本村は劇的に発展すると共に、経済と雇用、教育と文化、これらが調和する未来の礎を築いてまいりました。

今後も既存企業の皆様が大いに活躍できるよう、インフラ整備や環境整備など可能



大森彦一(忍野村長)

PROFILE 昭和24年2月1日生
昭和46年3月31日 国士館大学卒業
令和3年4月1日～令和4年3月30日 忍草区長
令和5年8月29日～ 忍野村長



二十曲峠展望台からの富士山

な支援は最大限に行い、大手企業をはじめとする中小企業の更なる発展と飛躍を願っているところでもあります。

そして、現状に甘えることなく、教育、子育て支援、福祉の充実等、住みよい環境の維持のためには自主財源の確保が必須です。

村内には景観の良い有効活用できる村有地もありますので、ホテル、レジャー施設、産業施設等を誘致し、更なる活性化を図り、目まぐるしく変化、多様化する社会情勢に対応し、持続可能な村を目指していかねばなりません。

子育て支援の更なる充実を

全ての子育て世帯を切れ目なく支援し、子育てと仕事両立できる環境を整備し、支援が必要な時に必要な支援をできるように取り組みます。

短期的な施策としては、

- ・ 第1子8ヶ月以上3歳未満児の保育料無料化
- ・ ファミリーサポート事業の充実
- ・ 高等学校就学生徒の負担軽減として年額5万円の支給

中長期的には子育て支援全般を本村の最優先事業として位置付け、財政状況を勘案する中で更なる支援を検討し、地域全体で



子ども料理教室

子育てを支援する仕組みづくりに取り組み、人々が「忍野村で子供を育てたい」と思えるところまでのサポートを行い、子供達や若い世代、誰もがこの村に誇りを持ち、未来を担う主人公になれるように、子育て、教育の更なる充実、環境整備に力を注いでまいります。



新名庄川と桜

結び

この美しい自然景観と豊かな水、緑に恵まれ受け継がれてきた伝統文化を守りながらも、時代の変化に対して果敢に挑み、誰もが夢や希望を持ち、安心して住み続けた忍野村を築いてまいります。

あらためて「人」について

令和4年7月から3年間、甲府市で副市長として勤務させていただきました。在任中は、樋口市長をはじめ市役所の皆様に大変お世話になりました。また、多くの方々との出会いにより充実した甲府生活を送ることができました。この紙面をお借りして、あらためて深く感謝申し上げます。

赴任当初はウイズコロナからアフターコロナへ移りゆくときでした。甲府の中心街は「コロナ前はもっと人がたくさんいた」との声を多く伺ったもの、にわかには信じられませんでした。そして赴任後1週間経った中心街での七夕祭り。たくさんのお店が立ち並び、浴衣姿の人たちの熱気に溢れていたことは今もよく覚えています。その後中心街では人の賑わいが日一日と感じられるようになり、外から覗くとお客さんで溢れかえる飲食店も珍しくなくなりました。

仕事の面では、まちづくりが形となって見える瞬間に立ち会うことができました。甲府城南側エリアがこうふ亀屋座や小江戸甲府花小路としてオープンし、岡島百貨店が再出発を果たし、岡島百貨店跡地の再開発や遊亀公園附属動物園の再整備が着々と進み、市道国玉通り線や都市計画道路和戸町竜王線中央四丁目工区が開通しましたが、

苦言 提言

Kugen Teigen

奥原 崇
Takashi Okuhara

国土交通省総合政策局総務課長
(前甲府市副市長)



あらためて、長い年月をかけて積み重ねられた地域の人々のご尽力が深く心に刻まれました。

そして、一日の仕事が終わるといわゆる無尽文化に触れました。地域金融としての無尽は少なくなったようですが、地域の人々でお酒を飲みかわす無尽は健在で、ユニークな無尽（「地理無尽」という地図を持ち寄って地形や歴史を語り合う無尽）を立ち上げられた方もいらっしゃいました。

一方、「人」の視点で社会経済情勢の動きを見ると、人口減少や少子化が急速に進展する中、子ども子育てに国を挙げて取り組み、テレワークや二地域居住など多様な暮らし方が可能となり、働き方改革が本格的に進み、多様性・包摂性や女性活躍・多文化共生がより求められ、人口減少の克服に不可欠なデジタル化や新技術が急速に進歩を遂げています。こうした「人」にまつわる昨今の全国的な趨勢は、甲府も例外ではなく、むしろより深刻であったり、導入・活用が緒に就いたばかりというところもあります。

こうした甲府での三年間を過ごしてきたものから、甲府で暮らし、訪れる人々の幸福の実現に向けて、「人」について今まで以上に強く意識するようになりました。

ところで、これまで行政分野では論理的に正しい施策を推進し、その普及や周知に当たっては、論理的な説明を基本としてきたと思います。勿論正しいのですが、論理に訴えるだけでは住民の皆様と意思を共有できないことが昨今非常に多くなっているのではないのでしょうか。

例えば空き家解消に今一歩踏み切れない親御さんを説得する場があるとしても、近所迷惑になる、解体費は役所が支援してくれる等々。でもなかなか踏み切れない。例えば説得の時間帯を仕事終わりの19時頃ではなく、まだ頭が疲れていない、論理的説明が頭に入りやすい日中に行うのはどうでしょうか。説明者を（少し無理がありますが）お孫さんにお願すれば（お孫さんが宅建士や建築士であればなおよいかもしれません）合意に近づくかもしれません。

昨今まちづくりの分野においても、認知バイアス（先入観や経験則に頼って非論理的な判断をしてしまう心理的傾向）やナッジ（行動変容を促す戦略・手法）の活用が進められています。こうした「人」の心に着目したアプローチも今後大切にしていきたいと思っています。